様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月 ２０ 日現在

機関番号：１２６０５
研究種目：若手研究
研究期間：2018～2022
課題番号：１８Ｋ１２５９３

研究課題名（和文）メラネシア・フィジーにおける儀礼と環境ディスコースに関する人類学的研究

研究課題名（英文）Ritual and Environmental Discourse in Melanesia, Fiji

研究代表者
浅井　優一（Asai, Yuichi）

東京農工大学・工学（系）研究科（研究院）・講師

研究者番号：８０７２６８６０

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、フィジー諸島において2009年より導入されている「フィジー沿岸資源管理」（FLMMA; Fiji Locally-Managed Marine Area）活動と2008年に起きたペンテコステ系キリスト教団体（Covenant Evangelical Church of Fiji）によってフィジーの伝統儀礼用具が焼却された出来事を研究の対象として、今日、フィジー社会において進展している環境運動が、在地の儀礼的秩序との関係において受容・実践される、言語を介したディスコースとして生起していることを、現地調査で得られた語りの分析に依拠して明らかにする。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究は、環境を社会や政治、歴史との関係から考察するアプローチを超えて、さらに言語の使用を介して創られるディスコースとして捉え、文化的知識やコスモロジーとしての「環境」それ自体の生成と変容の有り様を扱うことにより、政治や政策、消費や権利等の問題に焦点を据えた環境研究の枠組みでは等閑視されてきた、言語や文化的知識、儀礼や神話、コスモロジー等、通常、文化概念の中核に位置づけられる「意味／象徴」の問題と環境の関係を明らかにし、文化的知識やコスモロジーとしての「環境」が、言語を介したコミュニケーションの帰結として生成し変容するのかという点を指摘する点に学術的意義がある。

研究成果の概要（英文）：This study focuses on the Fiji Locally-Managed Marine Area (FLMMA) activities introduced in the district of Dawasamu, Fiji Islands, in 2009 and the burning of traditional Fijian ceremonial tools by the Pentecostal Evangelical Church of Fiji (Covenant Evangelical Church of Fiji) in 2008. Through analyzing the narratives obtained from the field research, the research elucidates that the environmental movement implemented in Fijian society today occurs as a linguistically/socioculturally-mediated discourse, being accepted and practiced in relation to the local ritual order.

研究分野：文化人類学、言語人類学、環境人類学

キーワード：フィジー　環境　自然と文化　儀礼　キリスト教　ディスコース　海洋資源

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

一般に「環境」を対象とする研究は、生態学、生物学、林学、工学といった自然科学系の学問からのアプローチが主流であった。しかし、2000 年代を境にして、環境社会学や政治的生態学、環境歴史学といった学流に代表されるように、「環境」や「環境運動」を、社会や政治、歴史との関連において理解しようとするアプローチが存在感を増してきた。こうした「環境の社会(学)化」は、環境や環境運動が、本質的には人間と環境の関係性に纏わる、政治的、歴史的な現象として理解する必要性が認識されてきたことを示唆している。このような環境への社会学的アプローチは、政府や企業、NGO や地域コミュニティといった社会主体間の力関係を前提とし、環境運動の実施や政策の提言、土地・資源利用に伴って生じる主体間の対立、相互折衝の過程などに焦点を当てた分析が一般的となってきた。しかし、政治や政策、消費や権利等の問題に焦点を据えた近年の環境社会学の研究枠組みでは、言語、文化的知識、コスモロジー等、通常、「文化」概念の中核に存在するとされる「意味／象徴」の問題と環境の関係は依然として正面から扱われておらず、「環境」という知識・概念が、言語を介したディスコースとして、いかにして生成・解釈されるのかという問題は等閑視されてきた。

２．研究の目的

本研究は、「環境」を人間を取り巻く自然環境として一義的に捉えるのではなく、言語を介した相互行為を基点として、当事者たちによって「解釈」される文化的知識／コスモロジーとして捉えている。そして、環境に関わる「解釈」が生成され、変容するプロセスを、相互行為や言語使用の具体的な有り様に焦点を当てて分析することにより、これまで乖離してきた 1）生態学的な環境研究と、2）文化的な環境研究を体系的に接合し、社会から、より文化的・言語的領域、すなわち「意味／象徴」の問題へと環境研究の射程を拡大し、「言語・文化・環境」を包括的に扱う領域横断的な人類学的研究の枠組みを拓こうと企図するものである。

2007 年から継続的にフィジーを訪問し、ダワサム地域を対象とした調査を行ってきた。その過程で、地域住民と環境との関係性に関して、幾つかの問題点が見出された。フィジーにある南太平洋大学（Institute of Applied Science; IAS）は、2009 年暮れに、ダワサム地域でワークショップを行い、当該地域での沿岸資源管理活動 FLMMA の実施が決定した。しかし、ダワサム地域住民が FLMMA の実施に賛成した背景には、2008 年 4 月に当該地域にて、ペンテコステ系キリスト教団の一群が行った、儀礼用具を焼却するという出来事があった。同教団は、住民が保有するフィジー土着の伝統儀礼用具が、土地と「悪魔」（tevoro）を結び付ける物体であると訴えた。そして、3 週間の村落滞在中に、民家から種々の伝統儀礼用具を収奪し、焼き尽くした挙げ句、そこに十字架を立てるという「土地浄化儀礼」（Healing the land process）を実行した。当該村落住民は、この出来事が「土地の伝統を破壊し、神の怒りをかった。土地には悪魔が蔓延り、海の魚が減った。」と認識し、2009 年に大学が勧める FLMMA の当該地域への導入に賛成する根拠とした。

本研究は、こうしたダワサム地域住民による FLMMA（環境保護）の受容が、「資源管理」の実施に留まらず、崩壊する土地の「伝統的秩序」を是正し、土地からの「悪魔祓い」を完遂しようと試みた過程であったことを明らかにする。すなわち、地域住民は、1）社会的不安定や災厄の原因を、「伝統の崩壊」や「神の怒り」、「悪魔の存在」として説明し、2）「環境保護」という新秩序の受容が、地域の神話的秩序を復元すること、「伝統」の再生を図る行為であると捉えた。そして、3）「環境保護」を受け入れ、実践することを通して、「神の怒り」や「悪魔」が排除されたと解釈したことを明確にした。以上によって、これまで「資源管理活動」として、社会文化的な文脈とは切り離されて実践されてきたフィジーの環境保護運動と、現代フィジー社会の文化的コスモロジーとの具体的な関連性を解明し、解釈行為を通した「環境」と「文化」が交差するディスコースの有り様を明らかにすることを目的とした。

３．研究の方法

本研究では主に、フィジー諸島ダワサム地域、並びに、スヴァ市、ナウソリ市において、以下の 2 点に焦点を当てた現地調査を実施した。また、適宜、南太平洋大学パシフィックコレクションや政府機関（「先住民所有地漁場委員会; NLFC」、「フィジー言語文化研究所; FILC」など）にて、関連する文献資料や統計資料の収集を行った。

1）「フィジー沿岸資源管理」（FLMMA; Fiji Locally-Managed Marine Area）：

スヴァ市にある南太平洋大学の IAS（University of the South Pacific, Institute of Applied Science）にて、ダワサム地域でワークショップを主催した研究員（Isoa Koroi Waqa 氏等）へのインタビューや、そこで使用された資料の収集を行い、南太平洋大学側が、「伝統」や「神話」、さらには「悪魔」などの概念をどのように駆使して、FLMMA 実施の利点を地域住民へ説明したかについて分析を行った。また、ダワサム地域住民側がワークショップ後に行った、FLMMA 導入の是非に関する論議において、「伝統」の崩壊や「悪魔」の存在、

あるいは、2008 年に起きたペンテコステ系キリスト教団体による伝統儀礼用具焼却事件が、どのように参照されたかについて、当該地域のナタレイラ村での参与観察を通じた古老等へのインタビュー調査の分析によって明らかにした。

2）キリスト教団体（Covenant Evangelical Church of Fiji）による伝統儀礼用具焼却：
2008 年 4 月に、ダワサム地域のナタレイラ村において伝統儀礼用具を焼却した、ペンテコステ系キリスト教団体の組織概要、設立趣旨、活動内容について、同団体の創設者（Vuniani Nakauyaca 氏）へのインタビュー、同団体に関する資料収集に依拠して調査した。また、同団体がナタレイラ村において、3 週間の滞在中に行った伝統儀礼用具の焼却を通した「土地浄化儀礼」の一部始終を明瞭にした。さらに、その儀礼のプロセスにおいて、フィジー土着の伝統・神話的世界観とキリスト教的視点が、村落住民へどのように語られ、伝統儀礼用具の焼却が正当化されたのかについて、ナタレイラ村を拠点とした当該地域での参与観察を通して分析した。

４．研究成果

本研究では、フィジーにおける環境運動の特徴を、提唱者側の視点のみならず、それを実際に実践する地域住民側の視点にも注目し、環境運動が在地で共有されている文化的コスモロジーによって意味付けプロセスを明らかにした。それによって、環境社会学や環境歴史学、政治生態学に代表される、社会学的問題群との関連から環境を分析する従来の研究枠組みを拡大し、言語、知識、コスモロジーなどの「文化」的問題系を分析の射程に収めた。以上によって、従来は文化的問題系とは切り離されて実践・研究されてきたフィジーの環境運動と、サーリンズ以来、オセアニア文化研究における中心的テーマを成してきた「神話」、「伝統」、「キリスト教」などの人類学的諸議論との関連性を、具体的に解明した点に本研究の成果がある。

また、多くのコミュニティにとって、環境運動とは社会文化、歴史といった特定の文脈に根ざして実践される活動としての性格を持っている。そのため特定のコミュニティにとって「効果的」で「持続可能」な環境運動を推進するためには、当該コミュニティの社会文化的コスモロジーの中で、いかにして環境運動が実践されうるのかを精緻に考察することが求められる。本研究は、社会や文化を考察の射程に含めない環境研究、「環境」という視座を度外視した社会文化研究、これら両者を架橋し、双方における不十分な点を補完することを通して、環境運動が持つ社会文化的側面を包括的かつ実証的に明らかにし、より実質的な環境運動の在り方を提示しうる点が、本研究の意義として挙げられる。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計6件（うち査読付論文　3件／うち国際共著　1件／うちオープンアクセス　1件）

１．著者名 浅井優一	４．巻 84
２．論文標題 始祖の痕跡（figure）を辿る：図／地の反転、記号過程、或いは南太平洋のリアリズム	５．発行年 2020年
３．雑誌名 文化人類学	６．最初と最後の頁 482-502
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 浅井優一	４．巻 22
２．論文標題 高田　明（著）『相互行為の人類学：「心」と「文化」が出会う場所』	５．発行年 2020年
３．雑誌名 社会言語科学	６．最初と最後の頁 91-96
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 Yuichi Asai	４．巻 34
２．論文標題 Discourse on the Last Descendant: The Chief as a Constellation of Signs in Contemporary Fiji	５．発行年 2019年
３．雑誌名 People and Culture in Oceania	６．最初と最後の頁 25-54
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

１．著者名 Asai Yuichi	４．巻 11
２．論文標題 How Forests of Qualia Emerge	５．発行年 2023年
３．雑誌名 Signs and Society	６．最初と最後の頁 115-145
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1086/724190	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 浅井優一	４．巻 -
２．論文標題 分人性のポエティクス：書記された彼岸から今ここの儀礼へ	５．発行年 2022年
３．雑誌名 ポエティクスの新展開：プルリモーダルな実践の詩的解釈に向けて	６．最初と最後の頁 41-66
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計14件（うち招待講演　4件／うち国際学会　5件）

１．発表者名 浅井優一
２．発表標題 コーン『森は考える』を言語人類学から捉え直す
３．学会等名 マルチスピーシーズ人類学研究会（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 Kazuko Shinohara & Yuichi Asai
２．発表標題 TIME IS MOTION metaphors in Fijian
３．学会等名 UK-Cognitive Linguistics Conference 2020（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 浅井優一
２．発表標題 外来王を巡るプラグマティクス
３．学会等名 日本オセアニア学会 関東地区例会（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 浅井優一
２．発表標題 分人性のポエティクス
３．学会等名 愛知大学シンポジウム「日常空間における詩の生成と発展」（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 浅井優一
２．発表標題 フィジー語のメタファーについて
３．学会等名 日本語用論学会メタファー研究会「世界のメタファーズ」（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 Yuichi Asai
２．発表標題 Onomatopoeia as Signs of Naturalness: Semiotics on the Language and Environment Nexus
３．学会等名 The 15th International Cognitive Linguistics Conference（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Yuichi Asai
２．発表標題 The Fijian Chiefly Discourse as a Constellation of Signs of/in History
３．学会等名 The 16th International Pragmatics Conference（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 浅井優一
２．発表標題 図／地の反転と指標的類像：メラネシア民族誌におけるヤコブソン詩学の所在
３．学会等名 日本文化人類学会
４．発表年 2019年

１．発表者名 浅井優一
２．発表標題 関東例会コメンテーター
３．学会等名 日本オセアニア学会
４．発表年 2020年

１．発表者名 Yuichi Asai
２．発表標題 Multilingualism and Ritual Communication in Contemporary Fiji
３．学会等名 Conference on Asian Linguistic Anthropology（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Yuichi Asai
２．発表標題 Mana, or the Ethnopoetics of Magical Formula in Contemporary Melanesia
３．学会等名 Sociolinguistics Symposium Twenty Two（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 浅井優一
２．発表標題 マナ、あるいは「今ここ」の神話／彼岸：現代フィジーにおける文書と儀礼的発話の言語人類学的考察
３．学会等名 日本文化人類学会
４．発表年 2018年

１．発表者名 Yuichi Asai
２．発表標題 From Textual to Ritual: Semiotics on the Stranger-King in Contemporary Fiji
３．学会等名 WORKSHOP ON SEMIOTICS RESEARCH
４．発表年 2022年

１．発表者名 Yuichi Asai
２．発表標題 Fijian Metaphors as a Local Environmental Knowledge
３．学会等名 15th Researching and Applying Metaphor Conference
４．発表年 2022年

〔図書〕　計2件

１．著者名 小山亘・浅井優一	４．発行年 2022年
２．出版社 三元社	５．総ページ数 576
３．書名 翻訳とはなにか：記号論と翻訳論の地平―あるいは、世界を多様化する変換過程について	

１．著者名 浅井優一	４．発行年 2022年
２．出版社 ひつじ書房	５．総ページ数 312
３．書名 「分人性のポエティクス：書記された彼岸から今ここの儀礼へ」『ポエティクスの新展開：プルリモーダルな実践の詩的解釈に向けて』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

Yuichi Asai
https://www.yuichiasai.com/

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
米国	Harvard University	Harvard-Yenching Institute		
イタリア	University of Cagliari			
インド	Sikkim University			